雅言集覽

はにの部

837
13
79

国立国会図書館　タイトル『雅言集覽 13巻』 請求記号 837-79

ガラス使用

837-79

雅言集覽巻之二

○波の部

石川雅望
関豐俗 補

唐山文庫
根岸信輔氏寄贈
昭和八年

は 齒 和名三ロ 説文云ー口中折骨者也 和名波 源さろき 廿九 はのもとゝ〜くちてはのうちろうとて 枕三十七 くしげなき お 歯もなきこゝのわらひてまどりたる 日十二 歯とゝ〜ぐ やとまどひて 盛衰記 九郎冠者が軍ものとゝてのぶるとゝ 冢〜間綴て有てそろうと見ねゆゝ〜ゞぶもて長うゝて刃そゞ〜ゞ〜ゞ〜ゞ 白うゝて歯出てり **はなゝ** 歯並 古事記中卷五 波ナミ 美ハ志比々斯那スヽ須。椎のかさとゝふことゝぞ **はゝ** 和名三ム 斷 波之々 歯之肉也。今のふハギ入 **はかく** 日ロ 齟 波加久 毀歯也 **はがゝ** 歯形 小大君 廿五 春宮にてなもゝのもゝ〜げなるに **はがゝめ** 日三十七 齲 釈名云ー虫ハ蝕歯之歯缺折也。俗ハ虫ハ とのふ **はがゝこ** **はがゝろ** ちろ〜ろ 別に出 **はがゝ** 羽 和名十八ニ ー 和名波 鳥翅也 六脂六ト 翅ちろに小夜ふけてたつ時のねゝそ ゝろのひとりねるよ **はがゝ** 上上十九 ちろうこゞ男むな〜くせこのそ の今〜も人のうまからぎを 野勅 永五 敬系 まのれなくんろうてやうつ時のそこにおくるに 見とてゝくらん **はぶゝ** 別に出を **はぶゝ** 葉 和名廿廿二 ー 和名波万 葉集黄葉紅葉讃皆毛美知波 枕三七 ゝきなり 日十廿三 ゝふひろう見えて 月清 上 主の背系王まのく少 **はぶゝ** のたぶひ 別に出を **はぶゝ** 本末 **はぶゝ** **はのゝ** **はゝ** **はのゝ** **はゝ** **はゝ** **は

た

てにをはのえだ　岩の穴に入れまるに及ばず　俗くさるる

〜う吹くるまで松のびぐさ木ぶるくゆらて　俗多れ　廿七　惟光の朝臣のありつる人々宿をもとめ　日世三の男秋おもせとといひやりつゝ　日世風やあらく

いせ物　十五段　さるさがなきさびさんとえていらぐゆん

た

岩の穴に入れたぎ　万八世八　秋さちていくるもあら鹿　アラ鹿氏鹿ぬる鹿けの穴に鹿さ〜も　古　秋上　太刀川の川　俗　俗ちろ俗

岩穴とにかまつぎ　たどりつゝてろ木そ鹿なあけぞ〜にくる　ハテヌ　俗まきかゝろ　廿五　乃きとろ俗おゝめこひくまろうで

あつれば　久ハニ　射負〜あふぐもあるぞ　拾　八廿四　くらうなりぬれば　ナリヌルニ　このゝくにて火もとものさねる大方まのそりあうこたるに

たいらぶ

俳諧歌　俳の字古くより誹と書れば今俗ひんも

朝野群載　十三　評和歌策　医房　俳諧古辞　欲御其訓

さが〜ふなる〜隋書などに誹諧とかけるもこれ

続千載集　七　彩千載集　九　彩拾遺集　三十　彩続古今集　十九　古今集　巻十九　俗拾遺集　二十　千載集　十八

八手　八廿四　一土　誹諧歌　そこいらなるとのゝ人にろあらん

まさ〜き拾ろる人なゝ公任なども不知之而　通俊ものゝ公任たるにろ人ん　新後拾遺　経信卿云入　俳諧歌　あてとるゝろ

つろうさも被知ゝ　殊にかゝ公任経信不知　どのろすれば末代人非可定　又子載集にもあり大方さまろ　きゆうんなど入拾せ

られどもそ拾ろるなゝ俗拾遺子載集入てるあいれ任のことなれば　ろうのあとにやあらん任これとあり　歌よ定るにハ

あらぬと云体可見古今也　以上　八ぎ　幽　赤ぬ生　下廿六　八ぎ　これ拾云　そ、心のそろい何のたろうとゆふて任とゆらん幽赤ぬ生きけ

られ〜古今のろなれば　おくいとぶ　ぎろ

たいらい

拝礼　栄月のえん　廿七　こどのにたかうえのおよよ　まりまろ〜に宰相のを〜ぬるひ〜るを正月のつぶ　ちのたいらいよ

ありてトもあ人なりろり。八の宮のおろに　す〜まをとのり　英　三　仁平元年正月一日院の拝礼ありろり八条大殿大臣十二にて

たちのひ〜ろり一〜び拝〜てふて〜び拝〜ゆひろり　けるの礼起にえ〜てるとろやは三年にも又ぬぐぞあり　ろ

たいぶん

拝殿　英　六五　れあろろとのえせられば大臣ぬ〜ろり収びのひてたちて拝ゆひろり拝　ゆ八なろり

たいてう

朝　彩古　神祇　祭聖〜まろぞ付り〜にて〜科殿のなげ〜にろきつけ〜ろ〜

たいぜん

陪膳　梦秘　上　廿三　朝餉御膳　女房不候之時　公卿或四位侍臣為陪膳　恒例也

俗ろうろ　十九　大床子のおおなどいにそろにたぶ〜ゆ〜たんぶのぜんにすゆ　梶　八ぎ　えせ物のふろうゆ　ぶ〜ろ〜ぎ

たいも

拝堂　**拝〜ろ**　ろうぶ酒ろう　中七十五　宰相ものろひて　梶　八ぎ　ゆ

そこ物ろのにて出ぬ出ておろぐ出ぬ〜ものろぶ　**拝〜る**　彩古　雑十　大江挙周初て参上　英　三　仁平元年正月一日院の拝礼ありろり八条大殿大臣十二にて

ものおろ〜ろ　ゆ　ぶ〜ろ〜ぬ出ぬ出ぬ　ぶ　ぶ〜ぬ出ぬ出ぬ　ぶ　ぶ〜ぬ出ぬ出ぬ　ぶ　ぶ

[illegible]

そぐる 憚 [万十二廿五] 赤羽の[illegible]

そぐろそぐ [illegible]

そぐろそぐそぐ [illegible]

○そぐろり 侍の伺 **しそ** [illegible]

○そぐろ〜〜ら [illegible]

そぐる [illegible]

そぐそ 柞 [和名廿一] 音祚一音昨 和名由之 漢語抄云波々曽 木名堪作梳也

そぐそぐら 柞糸 [万九十六] [illegible]

そぐむ 沮 [礼記] 儒行 刼之以兵 [illegible]

そぐくそ 黒子 俗にいふホクロのるそ [和名三十三] 漢書云 [illegible]

そぐとぐさ 毋子草 [和名廿十] 本草疏云菴蘭子 [illegible]

そぐかりて [illegible]

しおぢ [illegible]

しおく [illegible]

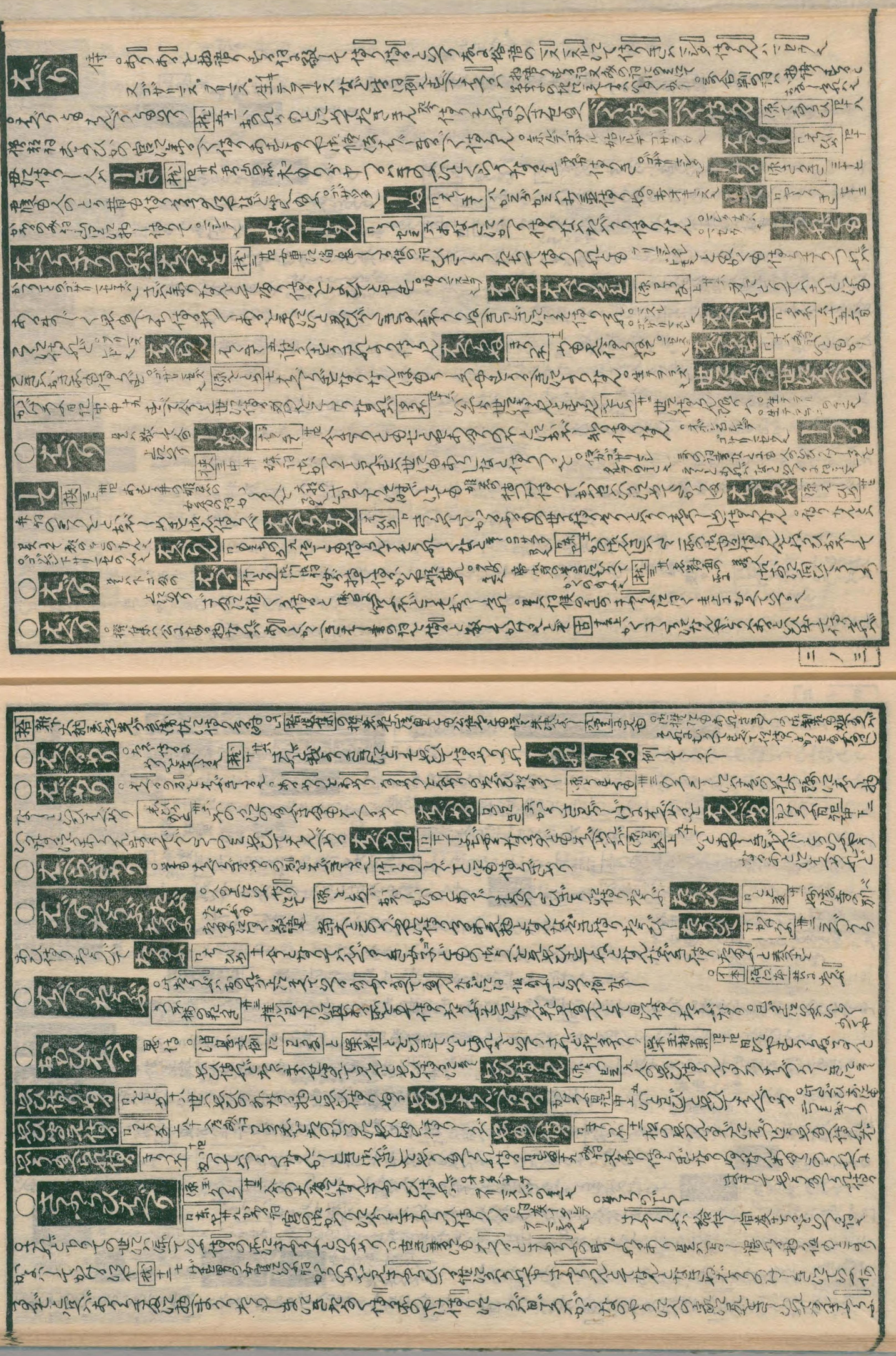
しなき [illegible]

しなる [illegible]

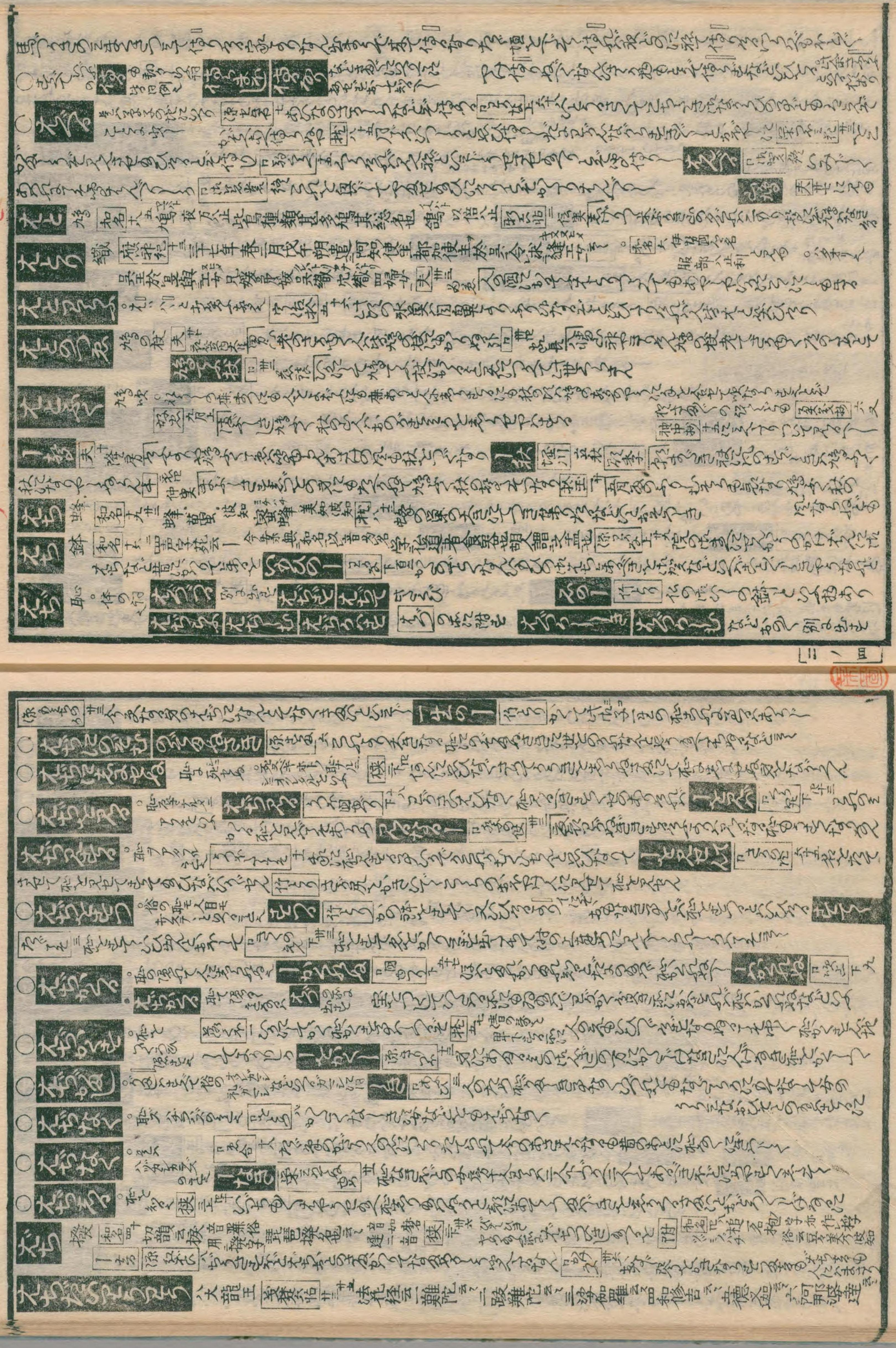
しなく [illegible]

しなく [illegible]

**しなく



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がうス使用

○ちらり　剣幕　[ちらり]　[ちらり]　[ちらり]

ちらりと　[ちらり]　[ちらり]　[ちらり]

ちらりちらり　[ちらり]　[ちらり]　[ちらり]

ちらりちらりと　[ちらり]　[ちらり]　[ちらり]

ちらりと　[ちらり]　[ちらり]　[ちらり]

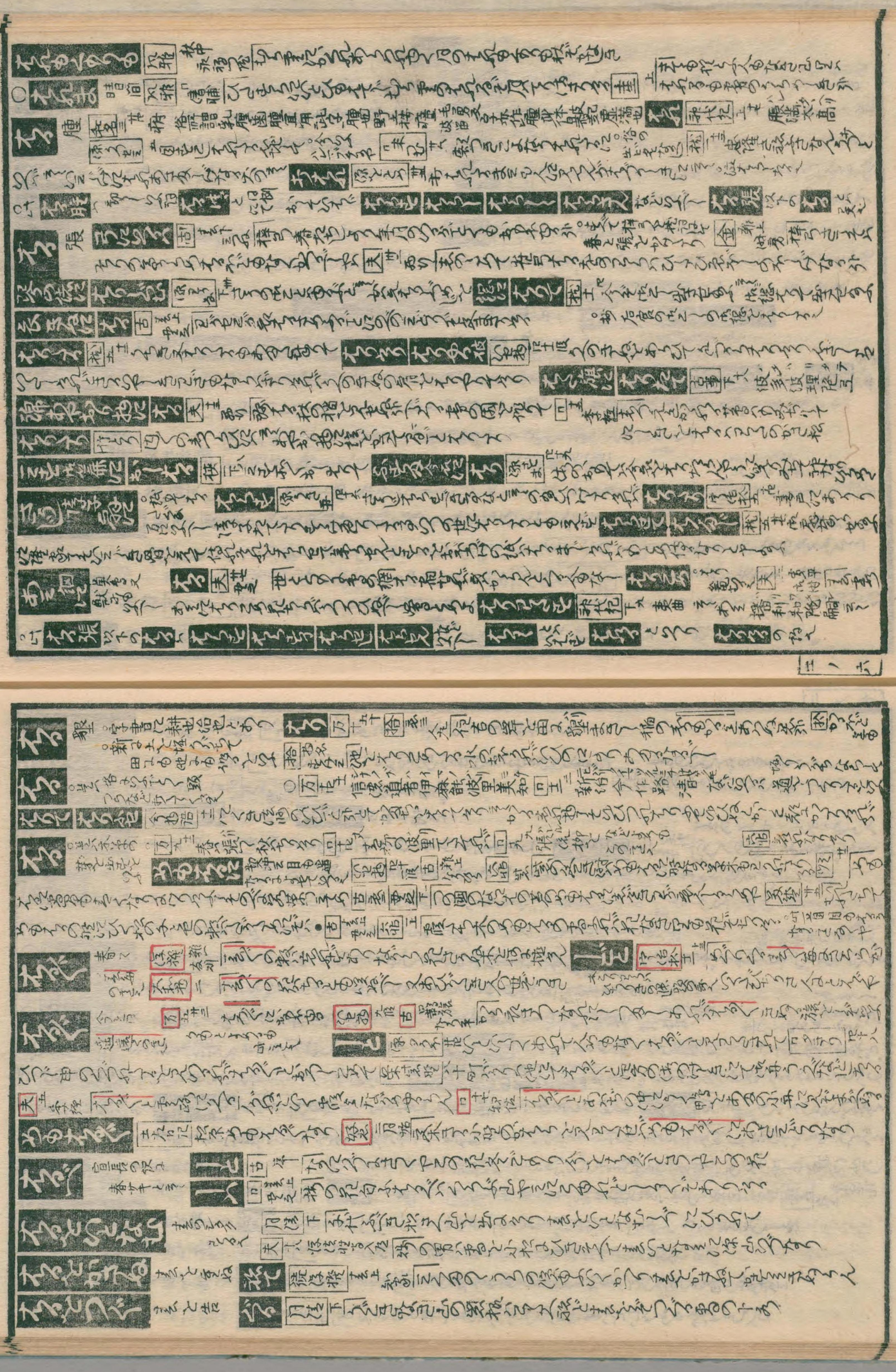
ちらり　[ちらり]　[ちらり]　[ちらり]

ちらちら　[ちらり]　[ちらり]　[ちらり]

ちらちらと　[ちらり]　[ちらり]　[ちらり]

ちらちらちらと　[ちらり]　[ちらり]　[ちらり]

ちらちらのこ



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
力ラス使用

ようなのみ
ようなのもの
ようなのもり
ようなのもん
ようなのやう
ようなのやうな
ようなのやうに
ようなのやうの
ようなのやうり
ようなのやうん
ようなのやん
ようなのやり
ようなのやん
ようなのやん
**ようなのやん

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79

えろぐーく

。俗ハ月ハ年くれとのへ万よりろ

えろぐーく

えろぐーく

しからぬ

しからぬ

しき

えがへ

えそのね

えぐ

えろ

えろむろ

えろり

えろりなき

えろりなき

えろりなく

えろりのなき

えろり

蹤血。今ノ人 和名四 照射のかゝ 続捜神記云 見三百鹿射殺明日辰尋蹤血矣今俗云 蹤血 波加利

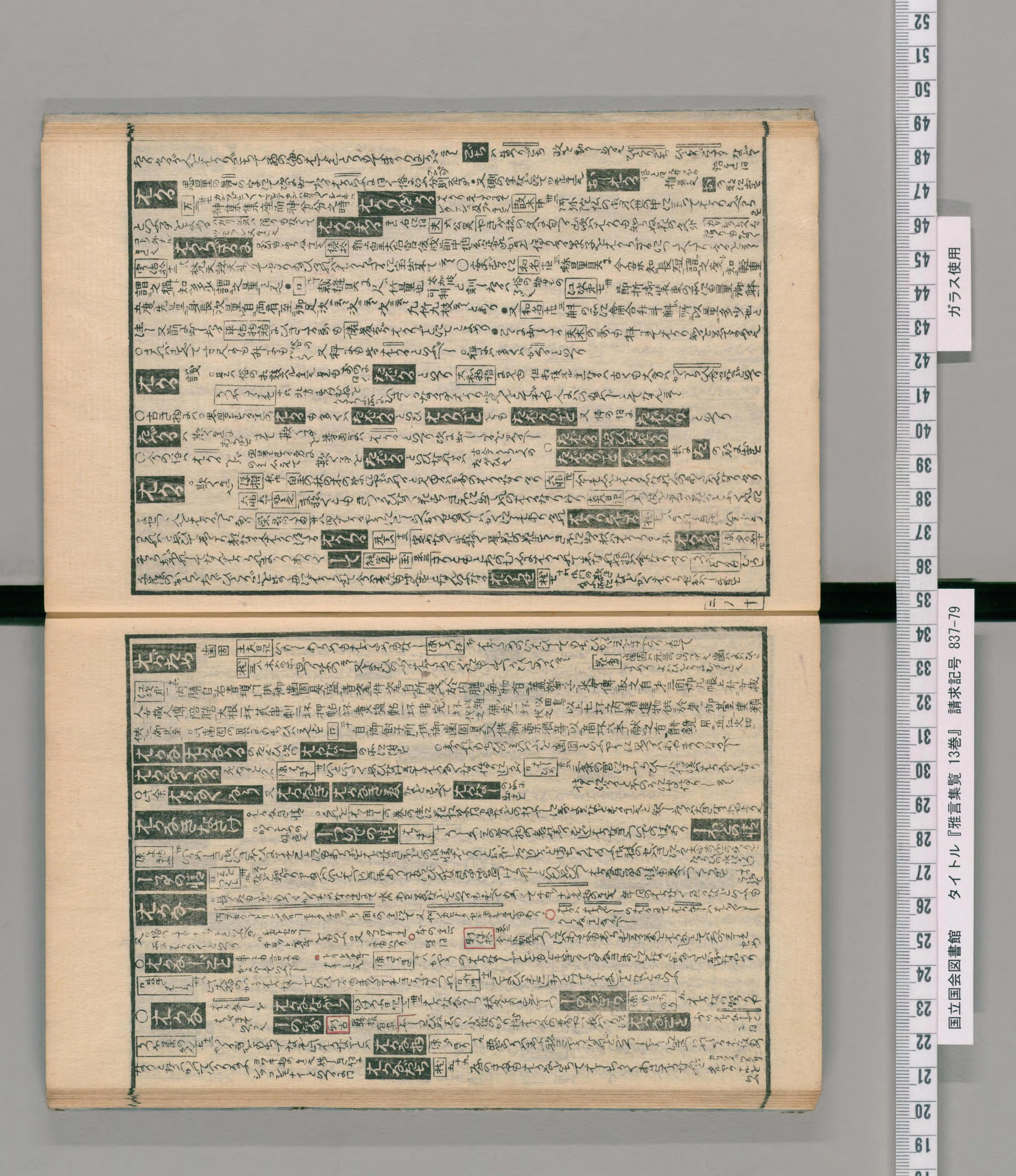
えろ

。ホド コロ ノミ など 伏もで 古ハ味ハ ひも拾 九度 ハたそのみとそろもちろいかぬあ

えろ

えろ

えろ



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

たうとい 貴

たうとむ 貴

たうとし 貴

たうとき 貴

たうとがる 貴

たうとさ 貴

たうとげ 貴

たうとうす 貴

たうとうがる 貴

たうとうがらせる 貴

たうとうがらす 貴

たうとうがらす 貴

**たうとうがらす

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がうス使用

○ **ケヤウ**　ケヤウ　ケヤウ　ケヤウ

たてふる

和名十五 板薄木也 功程式有ニ波多板 歩板 拾八 名おそろしき物 たてふる 物 蟻板 家の具へ

波文集 三上廿 人の家のそば板内えぐりきるかくさん必なる に業村が家のそば板内を見てとりたてあつらへと

たてぞり

。体の付く。白文品 滿幅 尺生ニ秋水紋

拾 秋 記教 水うみは秋のぶどうしてたてぞりひろき袋とぞ云

たてぶり

たてぶりのぶどうもちろんやちん

和名十九 蠅蚨 美赤色 波太ゝく 本艸云見似蚯蚓而長細色黄飛時作声在荒田野者也 倍よりよ おひろぶり

たてぶり

拾六廿 青紅びのさしぬきの たてぶり

たてく

。他のまき 今ハニヲリテ たてぶくとなり

たてぶくの

。たてぶくの糸は 俗はのぶバツタリト

たてぶくろ

たてぶくろ

たてと

。たてぶくも物のまにて 俗はのぶバツタリト

たてぶくろ

たてぶくろ

たてぶくろの

たてぶくろの糸は

たてぶくろ

たてぶくろ

たてぶくろ

たてぶくろ

たてぶくろ

たてぶくろ

たてまつり 促織。ゲンバオリ又イたづるとも 枕三十四 たてまつりとあり 和名五十六 給事名促織 彼太 旅里来鳴声如急織故以名之

たてまつり 畠 **たるの**ふる出也 **たてまつる** **たてまつる**のふる出也

六帖五上 たてまつりの扇風をさむるたてまつりくるまくてあのきりくとすく

たてけ 疥癩 和名三十二 内典云——— 和名彼太介

たてまつる 旅篭 和名十四 行旅具ハ 篋 唐韻云——ハ飼馬篭也 倭語抄云波太古俗用旅篭字

馬と例ふ籠の名のことにてあるしと持て旅中の食物などをとりての雑物ふくる篭とつる なるべし 異類 旅人をもたつる

たてまつるもむなしきとそやくいのこ 旅のとの旅たち 下卅 たてまつるつるつけるのそどの物のれてよき馬おかせたり

たてまつるところ 旅篭所。旅中の宿泊ところ おろ〜亜又食物など 下卅三 たてまつるきぞたりとあるふたり

とりあつまる所といるかるべし。今人やどもと旅籠屋とも万とりまるなふ名ハ

そ〜なとらふとあるりぬ酒の肴ありてあるを云れハたてまつるふとあるしき方より毛ハ

たてまつる 旅篭馬。太のたてまつる貢ものを馬にて俗に小荷駄とつる 字鏡十二 初刻の馬ふ

あるとさうぎあるとものを水もなこいハぐちんもちるれそうぞ馬ふるめ〜あると涙かたるうて

たてまつるおなと食べてまつれとうへ物りぬとあるとたてまつるかたてるなどをつきて

○たてまつるの馬 太ハ 夫 卅七 あるあ 旅人のたてまつるの行ぎりたる姿のまたもまつめやはな

たてまつり たてまつりにてく 俗のバ多くスルと

たてまつりて 壁裝 卅九 時とつり大鼓とうちわらとすきを未のあとかやのあとうちたてまつりて

たてまつる 跣 字鏡十八 彼太志 ちふ四ちつり 下十 中納言ふつけて南のたて〜ふ

たてまつりて 。俗にハ おの必ずるとの 非代紀 上卅五 果有大蛇 非武紀 十六 今果立悪効 字鏡十四

みとけ世あるぐ女れ后とけ世ふ 俗と生ものぐ法 粉の大俗ふとけ世ものとふ 粉ふ

女房ハ字鏡ふにふれ多ふにふれ多ふてたてまつりて糸枝大夜 ふ条官三井の美家を主をうそ多ふ

たてまつり 機 **たてまつる**のふる出也 美卅 三十五 宣命ふ非感ある言ふ直後たてまつる

たてまつる 果ものを 。俗とハ 給不御命 田ふ 利 枕三十四 御意ふ果之幸倍賜比 三代実録 卅八 今畏政本御意早ふ果行倍物奈利 卅

たてまつりてあるとしまつる **たてまつる** 文徳実録十三 **たてまつる**ふ 字鏡十二 ふ

たてまつる 万三十九 むもびてるハ果ふ **たてまつる** 万二十 内の大夜の所ふ **たてまつる** 字鏡十二 ふ

ふ 非切紀 懸 荻 穂 出 音也 万二十 ふ

たてまつる 万十五 ふ **たてまつる** 万十五 ふ

たてまつる 故の皮多ふ すかいさき出ふ 表てるる 。ふ

たてる 晴 。体の別 字鏡 枕十九 とそ多ふ

たてる 。俗にハ ふ

たてる 腹 **たてる** 張 。ふ

たてるのふ 非性紀 六十 ふ **たてる**の下ふ

たてぐしく 。兼 時 デ ジ ハ リ ふ 上 ふ 字鏡 枕 ふ 上 ふ 。ふ

又サツハリ多ふ ふ ふ

女房なとも牧ふ ふ ふ 三 ふ 三 ふ

なくとうなしるとれたゞ ふ ふ

ふ ふ

たてあるる 。つ 百十五 女ハ 字鏡 ふ

しかるべ 。ふ 字鏡 ふ

たつ 果 。方 年月ハ ふ

たる 。方 字鏡 枕三十三 長月ハ ふ

枕 三 家 国 ふ

たてる 年ぬ 字鏡 枕 ふ

たてて 枕 三 ふ 枕 三 ふ

たてて 土 日記 ある人 ふ 日記 中 ふ 日記 ふ

[illegible]

えて 体の語二根あり又

えての実 **えての月** のたぐひ又

えてく **えてなき** のたぐひ次に別る歟

えてん [illegible]

えつ

果 [illegible]

うとえ **えつまい**

えつえたり

えつえたび

えてのふ

えもえてご

えつ 初

えづる 初花

えづえ

えぢかえさ

えぢかーこる

えぢかるる 枕

えぢらふ

えぢーむる

えぢーち

えぢ 恥、体の初

えぢさる **えぢグター**

えぢかーこる

えぢかーこる

えぢーん

えぢーむ

えぢーげ **えづるーむ**

えつる 初実 [illegible]

えつるるぜ 初実風 月清上 [illegible]

えつく 小端。えつうに曰く [illegible]

えつる 初花

えの一 **えの一**

えつえる

えつえぎ 初萩

えつえ 初穂。稲の穂のむまびの初まとり人 夫土 [illegible]

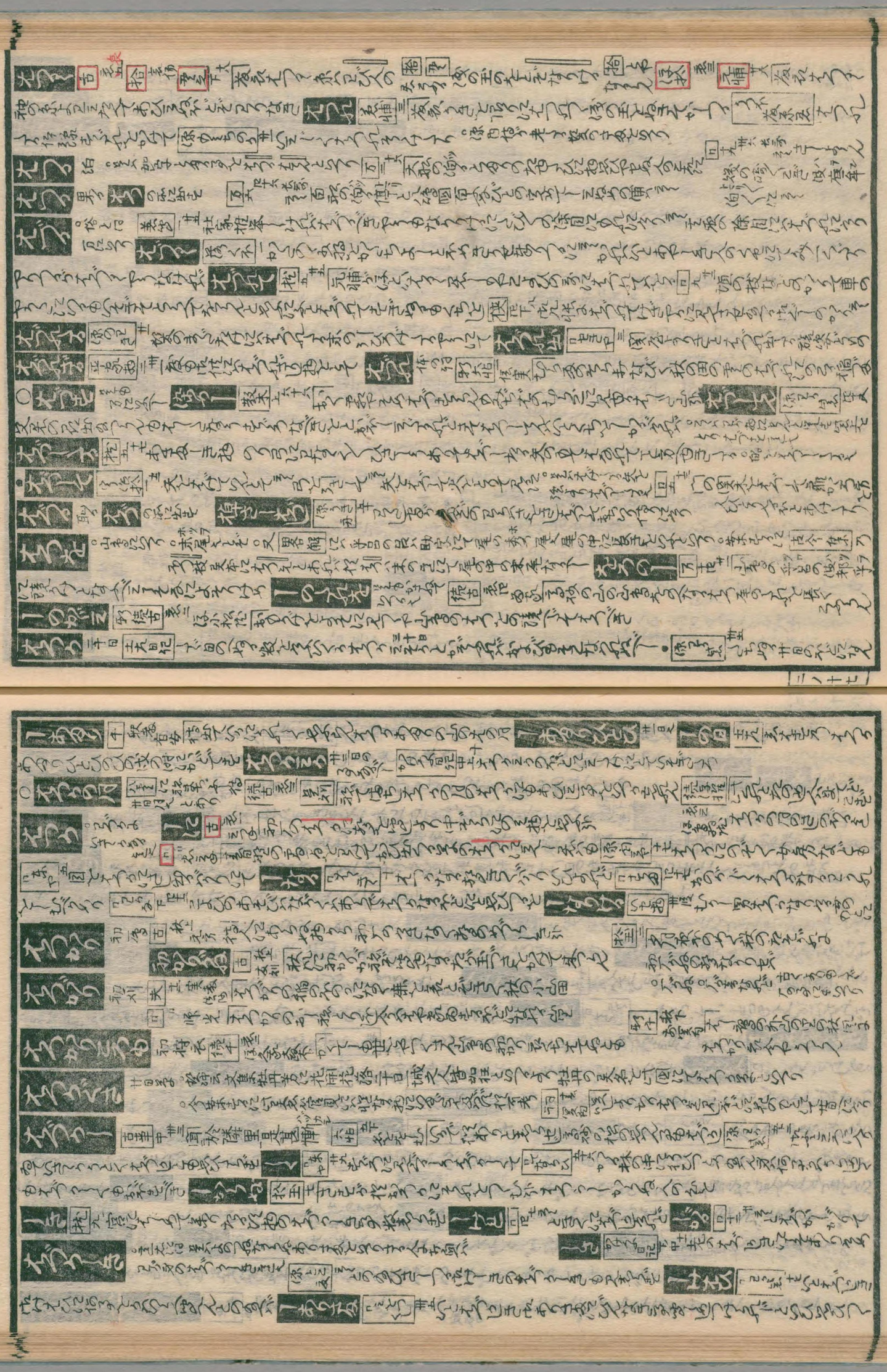
えつえ 初穂。契神云三代実録云 倍に万の初と初て非仏に [illegible]

非祇祝詞式 竜田風神祭 初穂者 [illegible]

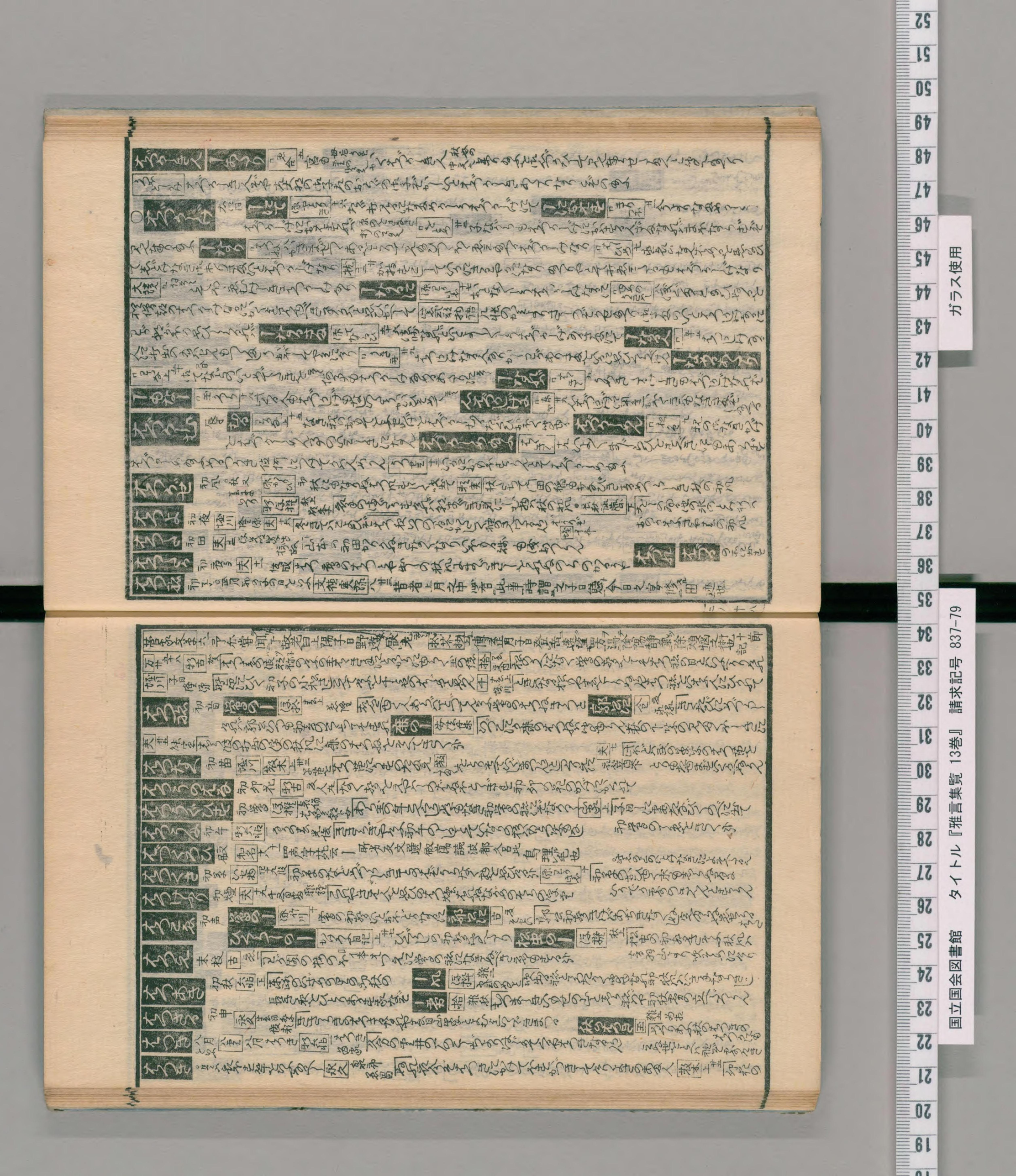
えつとぐり **とぐり** のたぐひ

えつりー **えつりー** **えるで** のたぐひ

えつる [illegible]



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

カラスを使用

○ **たなおろしをする** 去年の田の稲を刈りとる。

たなおろしをする 王 去年の田の稲を刈りとる。

たなびかす 万 ドロボウ。

たなびく 務本 中古 くろくて長い。

たなびく 花 ドロボウ。

たなびく 日葡 ドロボウ。

たなびく 日葡 ドロボウ。

たなびく 日葡

年の一日に花のさくえだの枝をなどとうぶ孫ん[illegible]「それのえだ」花さくまのうれきとつむぐなり谷の梅

[illegible]下たの枝が中枝になて行りに経文の花の弾より百に花さく高の梢ぶえだの林に枝とうねて

えだの林 さかへに八よりより

えだおと 羽音 字鏡 もは別よ出と 拾 非乱音 ながら多あるの中[illegible]花なくきづの[illegible]

えだやすらう 羽息 夫 二作光 ひづち中くまの使の巻のたねやさろ[illegible]

えだやすらと 形容詞六 [illegible]めざのあるのべの[illegible]

えだざと 唐棣 論語述 郁李也。又 陸機云 奥李也 [illegible]或白或赤。但 本草 時珍云 陸機以唐棣為郁李者誤矣 郁李即棠棣。非唐棣也。[illegible]さんど棠棣の蹴る 陸機云 許慎曰白棣樹也 又白赤棣樹 子正赤如郁李而小[illegible]郁李の下に時珍も其花粉紅色[illegible]と混[illegible]

えだざいろ 天武紀 上 浄位已上 并 着 朱華 ― 此云 波泥孺 万 十三 唐棣花 [illegible]

えな 鼻 和名三 切韻云 ― 面中 岳也 和名波奈 字作鼻 [illegible]

えなぐき 和名三 説文云 鬲 波奈 久岐 鼻 英也

えなぐーら 日 黄帝内経云 水溝在鼻柱下 波奈 波之良

えなつき **えなりそぎ** **えなまーろぎ** **えなーどろむ** **えなぐ** **えなぐ** 別よ出と

えなむ **えなるよ** **えなるさーろ** 別よ出と **えさえな** 鼻の表 [illegible]

えな 花 **花の香** **えびら** 花ある

えないろ 花色

えないろぐろも 花色衣 古 [illegible]

えなぐーら 花々。花ごとに

えなぐ 花々。美俗の

えなぐーら 花中 [illegible]

えなぐーと 花 土 [illegible]

えなぐーら 自鼻 [illegible]

えなぐーら 自鼻 [illegible]

えなぐーら 自鼻

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がラス使用

くるる 【清輔】 月雅 ・ちはやふるかみよもきかぬくれなゐのふかきいろにぞこころをそめし

くれなゐ 名 【紅】 ・くれなゐのはつはなぞ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がラス使用

たなはた　**たなばた**　**たなばた**　**たなば

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がラス使用

ちなみに今は俗のやうなり。

ぢやうぢ 【名】 ぢやうぢ。

ぢやうぢ 【名】 ぢやうぢ。

ぢやうぢ 【名】 ぢやうぢ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
力ラス使用

えだはなの
えだはなのこと
えだはなのこゝろ
えだはなのつゆ
えだはなのなみ
えだはなのにほひ
えだはなのはな
えだはなのはる
えだはなのまと
えだはなのみち
えだはなのみち
**えだはなのみち

花の鏡

花の記念

花のかつら

花のかげ

花のかげ

花のらさ

花のたもと

花のたもと

花のもで

花のな

花のなこ

花のらく

花のらく

花のなこな

花のらてな

花のおらく

花のくも

花のやど

花のあらでら

花のふくき

花のふさな

花のころ

花のこころも

花のこと

花のてろ

花のえ

花のえん

花のえん

花のこと

花のこと

花の雪

花の月

花の山

花の山

**花の山

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がラス使用

ナなのもと
名の跡

ナなのもら
名のもら

ナなのもし
名のもし

ナなのもり
名の森

ナなのもり
名の盛

ナなのもり
名の守

えなやうなるに

花やう。俗ゑ日 ●枕二一 夕日えなやうにさして 日土 ロ 朝花ぐときゝあがるれどに木のなのおまのあないとなるゝ

花やうにかやきて 源さうき 廿七月の花やうなるにひゝなりかやうなるおいはあそびやさとのひてゝ

花やうにかやきて 源さうき 廿七月の花やうなるにひゝなりかやうなるおいはあそびやさとのひてゝ

ロ さとみ 十七 いとあらぎやうづき花やうなるかもなり ロ ねうね 土 ホつむ つゆとはに鼻

の炎だうり表にもまぎるまゝうに花やうなるに ロ きりつ 不 三 世のおぞ炎花やうなれ方ぐにもからぎ ● 枕 三十 愛るもゝ

あやゝき家の足ホもなき物などに花やうにぞなく ロ 八 花やうに笑ふ ロ ゝ 西き 廿九 花やうに打笑ひのひて ● 西文 十九 三 前驅

道路 栄 ナヤガ 字治拾 三十七 さき花やうにおいて後上人の寄りゐと見れば男人のあれとてはぐらあく花やうなる人のゝ

ーなうでの花やうさに（

ロ 枕 ゝ 十六 ゝ及の紙のゝ 父などに花やうなるでなあやきゝに

えなやぎ

花やうと ぞどしろゝ 源くれ 三 いと花やぎまさりるゝ炎ゝ

つきて お笑ひゝのふおゝの ロ よもきム 廿三 ゐ花ちゝ里もあざやうにゝめ也なと花やぎゐらぬれて

えなやう

。ゝえ八俗の パリトのゝえ 源ちゝ 廿ゝ よるよその白ひえ花やうにえゝるもちゝなくて ヒルノカ のゝ

ロ うき 廿 四十八 ゐるゝ 俗りゐるにゝ ゝまと ゝてんとおぞゝ

えなまーろぎ

皇まゝ ろぎ 源ゝと房 六 付まゝゝ世の人のゝゝに八皇まゝ

。栄ゝるに 字鏡に 暗 目数動見とあり 目の動くようの用ひて皇ゝ動くはものゝなゝ

えなぎ

花房 和名 廿八 蕚 東宮切韻云一 岐奈布佐 一云花房 承花謝也

自文 廿三 花房 三十 鳥蕚 ヨリ 枕 五一 めゝ花ゝ

えなふく

花次 ・枕玉に 夫 廿五 ゝまの虎。夫のうち出の虎の虎心の花ゝ ゝ 数木 上 六十五 猫 果 炎あひよく花ぎ長くさきゝる友の松ゝ

。ゝものゝゝさゝまゝゝ ゝなどの 私の花と決ゝるゝとゝゝ

ーー秋

うゝゝる 巣とゝ えゝゝゝてゝぎりゝれ ロ ゝ 六十八 私もつゝよゝれ 起の人もつゝ ゝ ゝ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

がラス使用

こうはい 【紅梅】 ウメノハナ

こうばい 【紅梅】 ウメノハナ

こうばい 【紅梅】 ウメノハナ

**こうば

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79

国立国会図書館　タイトル『雅言集覽 13巻』 請求記号 837-79
がラス使用

ものしらぬ　物知らぬ。

ものしり　物知り。

ものしりがほ　物知り顔。

ものしりびと　物知り人。

ものしる　物知る。

ものしれ　物知れ。

ものしれがほ　物知れ顔。

ものしれびと　物知れ人。

ものしれる　物知れる。

ものしろ　物白。

ものしろがる　物白がる。

ものしろがれ　物白がれ。

ものしろがれる　物白がれる。

ものしろがれるもの　物白がれるもの。

ものしろがれるものの　物白がれるものの。

ものしろがれるものの　物白がれるものの。

ものしろがれるものの　物白がれるもの

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がラス使用

ちくしょう 畜生

ちくしょうだまし 畜生だまし

ちくしょうつき 畜生つき

ちくしょうなり 畜生なり

ちくしょうのこと 畜生のこと

ちくしょうのこと 畜生のこと

ちくしょうのこと 畜生のこと

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がラス使用

ものいはぬ　[名]　口のきけぬこと。口がきけぬこと。

ものいはぬ　[名]　物言はぬ。

ものいはぬ　[名]　物言はぬ。

ものいはぬ　[名]　物言はぬ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

ガラス使用

ちんしゃ 半自者 平地沼渡 三十台車 ちんしゃ

ちんない 半 障 未成年 成熟前 一本 地 比 回 沼 熟 沼 ちんない

ちんと 力 雨 水 ちんと

ちんと 韓 ちんと

ちんとさま ちんとさま

ちんと 力 ちんと

ちんと ちんと

ちんと ちんと

ちんと

たうだい 傍題 光明寺古板改正示合 判者定まる 七人 家延長 おひ長くさむ〜ろて人のんとろろ多もげれ 判の詞 傍数の長さ〜る事なきは各々太擂 扶桑拾葉集 長徳百首序 ぬ〜の行るべきこと知るにく

たうだて 方立 保元三 ある矢が伝来叢花の門の方立に簾中表てに立てるる春月と 伝来 廿三 本号が車の内にて牛 それ詞 それにはれ方立の穴とりつくもとと人がいぐく 方立の穴 それは方立の穴 それ詞 それにはれ方立の穴 それ詞 それにはれ方立の穴

たうたふ 報答 ○恩に報ずるの 続保紀 九 廿 厚子被聖恩知在此身終難報答 ○ 寺石抄 廿六 石塔の下の地の股 ふ三む

たうぢく 契沖云 放逐なり 仙宮に出てたぐひと刻七より又東堅志まもべ

たうつ 天五 表のんと 天 廿二 人もち

たうくつ 半靴 系 廿三 靴 唐令云 鳥皮靴 赤皮靴 字布 作韡 名化乃 久都 深頭履 釈名云 履深頭曰靴 先立 今安此間云深履 其頭短者謂之半韡 單皮履 唐令云 諸舄履 重皮底履 單皮底履 今安ホ野人以漆皮為半靴 名曰多自畢 宜用此畢字平 拾 六十六 初れのれるよりぐつをもそ

たうくは 放火 系 廿六 放火の異とのもの〜ものあり寺のホの小家 三字 焼 放火の異

たうくはん 傍官 千載 雅中 傍官ども加階〜 傍官 世に侍少きとらには

たうぐはん 判官 拾 三 北 ニガヒ 敏員のまちの〜 嫌疑のものやあることたもれ 元 ケンギ 世にかくまちの〜きれ 元 元 ほつ 元 ほつ

たうぐ 傍官 ○ 寺石抄 廿六 石塔の下の地の股 ふ三む

たうぐ 病者 ○病人 古九日記 毋 系 廿三 ものきぐ

たうぐ 放免 ○検非違使 拾 六 放免 放免 放免

○たきして 拾 神代紀 百ねのちねきのたちてきげてきて木らの枝とねるやちぐすぞ 猿士 雑中 近信大社にて使りるはたきて使りけ 朝とえて

ちゝー 万三十五丸 剱刀 俗より取例 たけり 異俗抱 やくもとつのつまたけるが波多流たち

たく ○背むらむき あゝどるどにいり

たくさ 拾 六十八 ちぐすぞ 拾きて ちゝ 拾 十二 えびどきあ

たく 掃 拾 おすぐ たくさ ーきよむ 万 ナ 彼吉きよつくまつて

たく 吐 文選 古新紙 咸含 和而 陸氣 たき 字治拾 丸川 ちぐすぞ

たぐ 剝 たぎ 神紀 上 全剝 此三字都播伎 剥天班駒 たぎや 字治拾 たぐん たぐる

たぐ ○首かゝと首ハメカクルもはさと たぐる 万三十 たぐりる たげて 万 たげて ーたる

たぐ 弦木 為弧 字治拾 たぐん 万 たげる 字治拾 たぐる

○たぐむ 羽裏 たぐまん たぐ ーまる

○たぐまし 字 たぐ ーあれど たぐ ーなん

たぐ 嶺 たぐ ーなん

たぐやう 情 たぐさ 茅 拾 字治拾 上 ちぐ 世中にかしきむぐちのセ多りはどひ

たくうち 博士 たくうち 簿士 たぐむ たぐまる たぐ ーまる

たぐ 夫 たぐ ーなん

たぐ 字治拾 たぐ 字治拾 たぐ 字治拾

たくぐやう 白状。クチガキ

たや 平点三十三 西光が白状元て来れとのゆへ 盛衰五 七仮 たゞゆより終りを白状仕故にして判形をして

たや 平点二十五 に二拍あれどゆれもかとハ早クのをこ 弓矢の 平点二十五 去て俗にイツカヤ とゆるゞくトックモヤのをこ

たやく 平点二十五 別よりをして

たや 拾 赤人 きのふそ年ハかゝるを殿ハ君のゆにてやたちにくろ 浮拍 雅 弓矢の ふるゆしくもつくるかたや 柏木のもとに〜ゆと

古 弓矢 よりぶ 人ハかりや 弓矢をまるまゝとあひろゝとなのめ上ゞ命なりろ 浮拍 弓矢 乃雅 人ハ

よりもゞの 風雅 新下 人食駅王 ちろれぬ後おるゞ 扶にてたやなゝとをの秋も来よゝろ

たや 平点 未来にて ハウ ヱテ ハウセヨ 叶主の **たやく たやう** の 別よりをして

下 れなるもの主なるもあり なのゝ

ーとそ 拾 九二 后羽局 ちりまゝ〜ゝなりぬゝんさがたやゝてよさりいとゝく とゞたろゝく 浮うそ 弁 六十九 さらがたやとて 山人とか〜〜ゝ

百十五 つぶ 雨の萩さきにゆちりぬ月に早 きて又まやちゆの月人 百十 世 ゝてゝちゆ 再

拾 文 世之 おのゝ方にたやこぎよもよ郭公乃になきつと人にかゝてん 浮拍 雅 世之 大あやをゝ〜みのゝ小れむゝ〜たやこゝろれ 代のゝげえ

吹 ゝくきこれゝゝろゝひよりゝゝ 紀れにまるとて秋ゝたやゆけ 衍ゝり たやゝかれ供に対面〜ゝ 古 猿 ゝゝしきるたや 弁にのれ月もゝれぬと

持の上 上十に かの人ゝもたやゝれよゝて いとれ 六仮 たやゝあもあけなんとゝひつゝゝ

たやく ○トヤク ヤウ ゝ 落ゝれに にの君たやゝてゝゝをのゝゝゝ ゝゝゝゝ ゝゝゝゝ ゝゝゝゝ

たやも ものかゝく 浮ゝ 百 上 十九 方のおとゝ 初 ちゝそたやゝとにたちゝる かけゝろ 月 中下十六 人ゝたやゝとそのゝ〜て

百 世 ゝ 百 世 ゝ ゝ ゝ

えやりごろつ

えやる 人のきもをとる

1馬 うまのひきつり

えやらえ 人にあそばれて人のあなどりをうけ

えやを 早稲

1の狐 夫

えやとざ 早業

えやとせ 早早稲

えやえ 早川

えやうつ 八月

えやらう 古

えやむ 早

えやうる 早

えやく 早

えやくも 早

えやく 古

えやう 古

えやらろ 古

えやらう 古

えやくぐ 古

1も 古

1より 古

えやくの 古

1のる 古

えやく 古

えやく 古

えやう 古

えやう 古

えやくぐ 古

1も 古

1より 古

えやくの 古

1のる 古

えやく 古

えやう 古

えやくぐ 古

1も 古

1より 古

えやくの 古

1のる 古

えやく 古

えやう 古

えやくぐ 古

1も 古

1より 古

えやくの 古

1のる 古

えやく 古

えやう 古

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がうス使用

もとりうしろへ〜〜〜

しべ 葭辺 [要之上三十九] 手立て

しまら 葭中 [野六帖三] 伝実 [天文歌合] 葭面 [俗撰] 秋十人 [天文歌合] 拾 [報] 天文歌合 [天文歌合] 葭づら [俗撰

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がうス使用

[ヌ]ヌ[ヌ]ヌ[ヌ]ヌ

さつきまつ山部そうちそ今もなうなんそのふる事 [保撥] 雜一 麻呂 いてくも寄りてうなおそこ飛立ぬ一王の羽色

[夫] 三 字あれ あら玉の年の初多ちそ新けのそらにきる雪 [形恒] ちう 丈秋年そうさうに新きて

○ [附] **たゐる** 者羽 [和名] 六十一 伎布風俗文選豆 飛峯也 [文選] 呉新城者羽 [ハフリテ] [ハタキメ] [イラヌス上三]

[ハフル] [者羽] [万] 十九 羽振鳴き [ハフリ] [ハタキ] [ハフリ] 西京雜記 [ハフリ] [ハタキ] 者羽 寒生者羽 於蓬尾標

○葉さらす

たうつ **たゐうつ** **たゐる** **たてく** 共は日さえ位 [万] の後 **たゐる** **もんく**

○ [万] 三十九 朝羽振風社依衫 [ソヨラタ] [ユラハフル] 夕羽振風社来鶯 [キヨル] 又 [四六] 十六 朝羽振風のおとさうさ [万葉新抄] えるの明と

つどろく風のふくふえ [文選] 江淹 ふも八風不朝 [ハフル] [ハラ] 羽振 [ハフリ] 羽振 [ハフリ] 羽振 [ハフリ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がうス使用

ものいはず 口なし。

ものいはぬ 同上。

ものいはぬ 同上。

ものいはぬ 同上

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79

ガラス使用

をぎ 萩

をぎのうらなみ 千 **をぎのかぜ** ほ 拾 **をぎのうえ** ほ 拾

をぎのはつ **をぎのはる** **をぎのはつ** **をぎのはつ** **をぎのはつ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79　　ガラス使用

そーつる

そー

そーとつてのしるべ

そーの方

そー

そー

そー

そー

そーぢら

そーぢと

そーぢら

そーちらう

そーちらき

そーりつそそ

そーりかき

そーりくらべ

そーりせ

そーりび

そーる

そーぢら・そーぢと

そーぢと

そーぢく

そーどの

そーぢ

そーぢく

そーどの

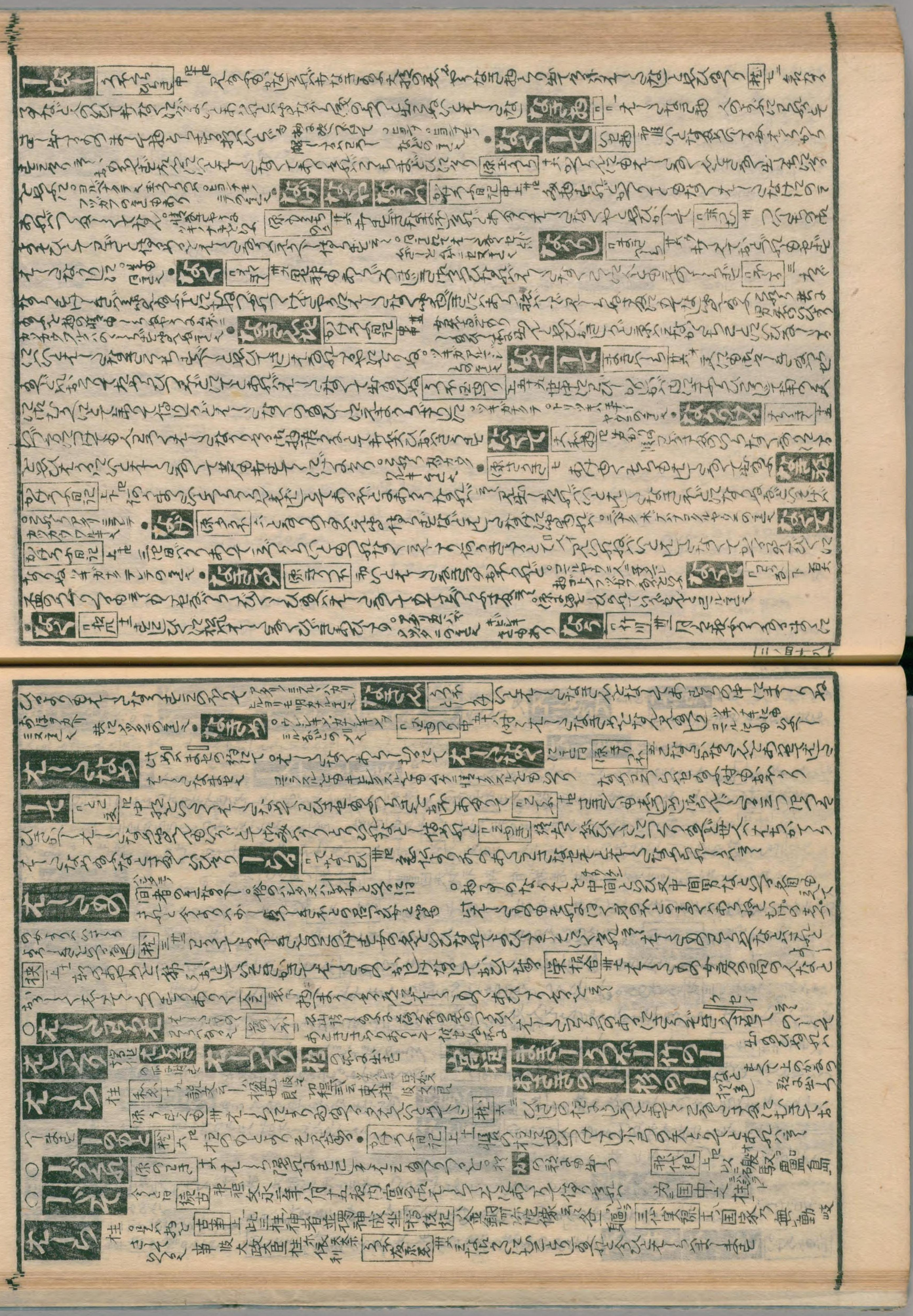
そーぢ

そーぢ

**そーぢ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
がラス使用

ケーシ　ケーシ　ケーシ　ケーシ



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

ヘーあり 冬白 [名詞+] 〔ヘーあり〕

ヘーあり 其の時の過ぎ去りし事を思ひ出でて物語りする時の詞

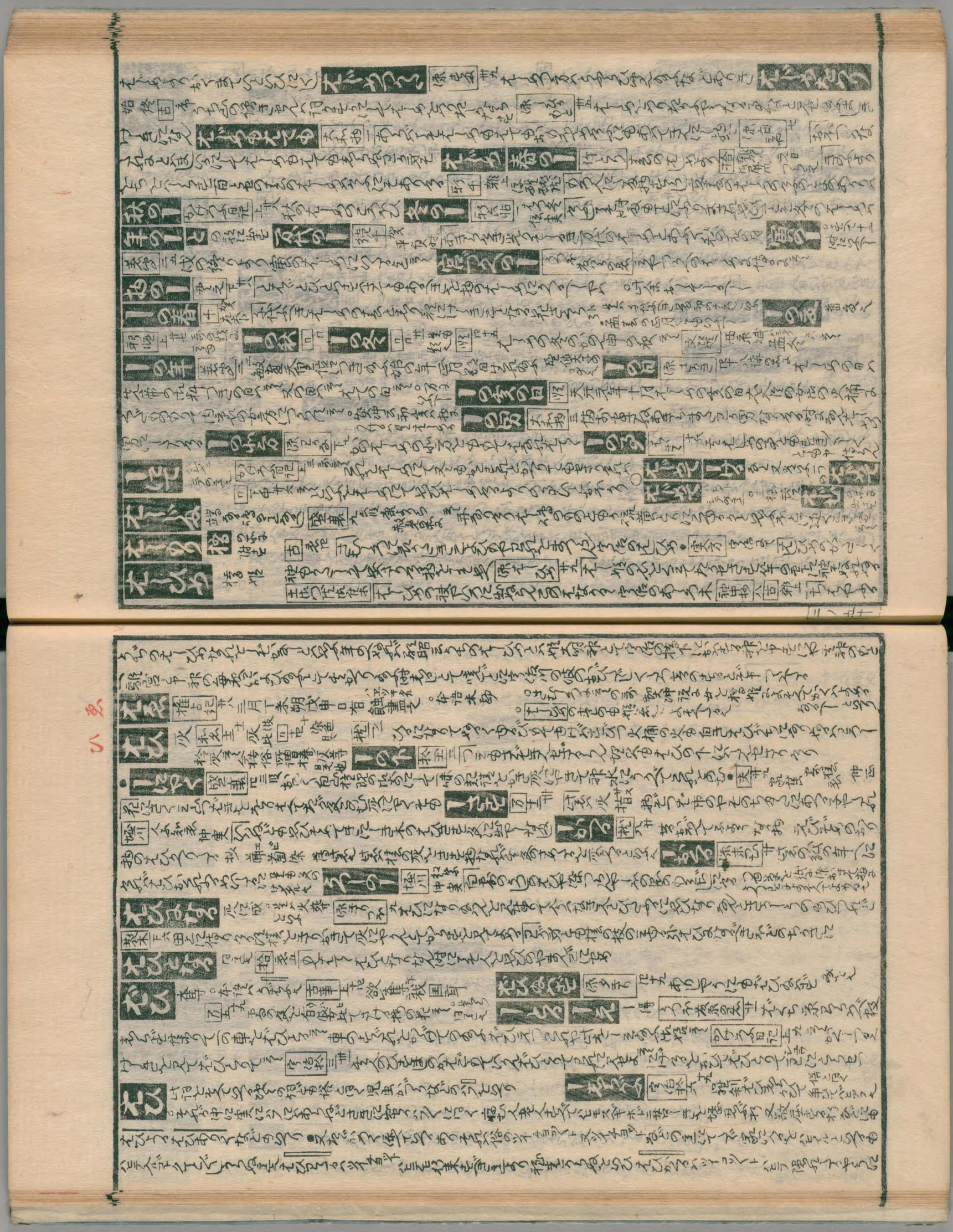
ヘーあり 支度 [名詞] 〔ヘーあり〕

ヘーあり 用意 [名詞] 〔ヘーあり〕

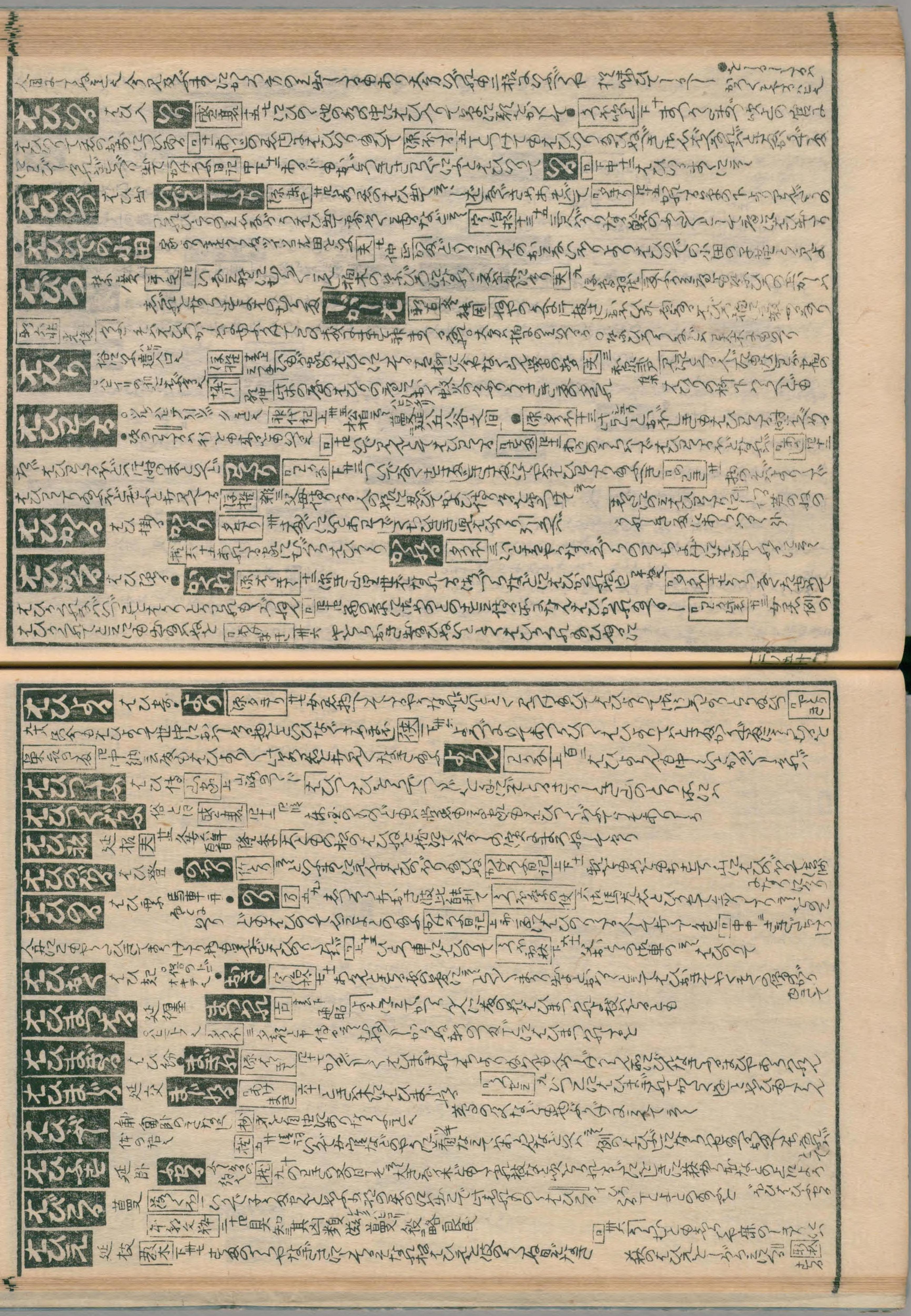
ヘーあり 清水 [名詞] 〔ヘーあり〕

ヘーあり 清水 [名詞] 〔ヘーあり〕

ヘーあり 清水



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

たひあるく 旅歩行 **あるき** 古 いたゞき 今 頂

たひひろごる 延喜式 **ひろごり** 古 岸のべにもるかつらのたひひろごりてゝ

たも 古 たにこそのはも 和名抄 **たもの** 古 たもの 和名抄 **たものうつえ** 梓宇の杖 喫仲言 鹿明言梓のりの杖に樹枝くりの倭の言にはなもの杖とも柏木にはあれば柏木にあてあぐ木とのまのうつえや仁徳紀に葉些弓簡 始皇

とにとりたれば杖かしたのとりもるなるこうつかの拂使ふ西つの国元 おいてさがのかしかもなりにろる子日と子代とかそふべきなれ

小松の杖の百ぐりあるとりんは安衣 枕 三八 やしく朱いくもしたのりの杖のまたちんもいとかしと

たのりの杖のまろるとあるとたたしたろりるさるみ ほ 拾遺 雜二 枕 杖 雜二 天和二 なつのたのうへの木は

あぐりにろりるを五月あにたのりの杖のうちるまで● 倉 秋 後拾遺 あしこそたのりの杖もてるるん月は 仮名文 かしまさごとも人なりときとあの和の楷の 彩百 文

おたたたを 芭蕉 和名抄 ― 発勢 平波 古 おたたを 和名抄 たをやかに 文 春後主かしハ

たを 馳 天 おたを 花ざかりちりはんとなる小車のうちるつ一つそやうるもなき

こゝろ 世 枕 とのとのうるそ一しらむと

たをり 古 たをり 和名抄 **たをる** 古 たをる 和名抄 **たをり** 古 たをり 和名抄 **たをる** 古 たをる 和名抄

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
力ラス使用

ほと　ほとゝぎす　古今　夏　ほとゝぎす　ほとゝぎす　ほとゝぎす

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79

にもゑのみとてあり又ものぐちゝものくち神よハ夏立あるゝ〜

にたゝてき 続十 ねゐにたゝてきあゝ〜 ○醫餘べとぞ
療 和名二ロ 唐韵云一 稻雨水也 ホハ太 豆美 万三十九 みゝてきゝ 雨ことろ時夏多泉ゐゞ〜後とうぞうねつる
○ゑにゝ夏ゐゐゐゐとの 拾 雜長よとゝゆゝゐゐゐ夏のにたゝゝ ゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

カラス使用

○にくむ　仕の活　憎む

○にくみ　名　憎み

○にくみ　名　憎み

○にくみ　名　憎み

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
力ラス使用

にやう 鎧

にやうの

にやうの

にやうの

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

がラス使用

や〜ものんびりとしたもの。

ひなびる 田舎。

ひなぶり 同上。

ひなぶり 同上。

ひなぶり 同上

によべさう 女別當 [係三とつ] 廿 女別當〜てはべるべり 但 赤官の宦女〜

によとうぐう 女春宮 [とうぐう] 12 まうけの君おハ〜まるなるべてそ女房にて仕りるとき〜 皇后宮 [係枕] 夜 [係きりつれ] 廿六 心にくき

にようぼう 女房 ・[illegible]知と 係の音信〜 [枕] 七十 夜上人は女房やさまるひまなきとおぼゆ〜てしかば 係枕夜裏物語 女方のさまとかきたる所あり〜き侍〜

にようぬん 女院 ・四母とや 百 係枕 12 正暦二年九月十日皇太后依御悩於式曹司出家即号東三条院 天皇行幸 [女院記] 東三条院詮子 [illegible] 東院后 条院御母〜 [枕] 八十さらぬ女院〜などの名あるべし

にようくわん 女官 [係枕秘抄] 下七 女官 基房 女官御裝束物 [illegible] 御湯殿女官奉公物也〜 [係まきりつれ] 12 内侍所にもるるれて女房ども内侍どもまりつ〜 [illegible] 三 大名さまぎき きたの女房などを思ひ出でぬ [枕] 廿六 いで女房などやうにつきなるべしあらん [illegible] 十六 なぶ〜しろるる所 女房どもの髮あげて 九 [illegible] 女房ゆゑ〜 [illegible]

にようご 女御 ・[illegible] 后 [illegible] 雄略紀 十 便欲自求雅媛 為女御 上 つぼね女房〜

きりつれ 卯 女院更衣あるべきさまなるべきなる中 [illegible] 三 右大臣の女院の栄月の [illegible] 九条後の女院 [illegible] 弘徽殿の女院 [illegible] 雅亮殿の女院 [illegible] 宣耀殿の女院と [illegible] 殿の名のもきりつれ 一のこの女院 ・一のこと生きたりのつる女院 [illegible] 春宮の女院のよ

いどの 女院殿 [係[illegible]] 12 次泉院の女院後の院方なとてそい [illegible] 女院の後まちのことわぞちとちひつるはられておりたもあつと

いだい 女院代 ・女院なきはは女院 [illegible] 十六 [illegible] 十 [illegible] 京にて大嘗会などの行はれ [illegible] 係氏の宮 女院代〜のひてやどてまるあ〜と

いや 女院屋 [illegible] 栄 [illegible] 八 羅京殿にまるものふ〜やそれてどる女院やなどあぎ侍りい [illegible] おぼ〜づき あり [illegible]

によう ・俗のウヒリ ヨバルと [illegible] 12 [illegible] 十三 十九人のうわ [illegible]

によてい 女帝 [盛衰] 三 12 皇后女帝とて〜 [illegible] 十六 [illegible] 十八 [illegible] 十六 [illegible] 十 [illegible] 十 [illegible] 十

○**になる** 愛義 世三 十三段 みなわち肩さになる。おもおもそろそろ。

になひいでさせ 。まこと エヤリトよませろまこと 古月記 十伝 おくにになひ出せる事

になき 無二 大和物語 三の位 長恨歌云方仮品に毎二無二三とあるなり。又案もろに 六帖 のにおきと

さとるの歌 世記 にてるく一本又おくとあり ふろるおきと日まるく。又案もろに 六帖 のにおきと

いる歌の詞ハ時にげるおきとよまりにげるおきの張りるる

一人 いせ物 九十三段 むかし男ありけるやいくにとにおきる人とおひ

みけるろ

一ふ 保元合 八 又おきるなる接ともにおきる紙とするおきあつめきせるる

一車 。徒の上 上ハ十 糸もものにおきる

にあく うつかろ 年下九 おくるるの物次合せていとるるくあそびせるる

ひきぬ 。ひきぬ おきひきぬ ども

ちろふ ふれば 保元合 モ元のまとにるくかせるる 。おきる に 物はにるくとつくしてる 歌 兵ふ物 義と 奥もまさりてぞ 又 世ろ

なう 。三のくさんの 又 とひる人 俗 物 と

大和物語 三 そしとるるろ ふればいとにるくめでるひろ 。 ■ 物ひなきいとにるくを

いとにるろ ふひかいとゆなろろ 。三 平仲 又 ろるかくてにならけさしろ 。五 世になくかとろ ふれば にるるくろ

にて〜るひろ 保 まさ〜ち 二 後式いとにるくるてが づきるる

にらむ 。 **にらえ** 慈仙 絆眼 伴 嗔目 保 あら 世 ゆ〜きいとあるてにらえ 目 又 合せ

ゆふとえ〜けにや

一あぐ 字治拾 十三 赤きまさてなる目の中〜くあ〜けなる〜くにとこえあげろ ふれば

にらま〜 平 巡 三、大のまるとえいろしあ 物 えとえ びにらま 物 て。にらえを

のえ〜。 彩 桜 乗 記 怒 怒 面 似 悪 鬼 之 眦 眦。にらむ

にん 任 さきの任まる 〜 松とえ 侍 て 続 ほ 撰 義 三 みちの ふ の ふ に まり 下 ふ ろ に て 任 え て 〜 ほ 又 ほ ふ ま ま り な り て か ろ

なんとろに **一に** さきの任まる 〜 松とえ 侍 て 続 ほ 撰 義 三 みちの ふ の ふ に まり 下 ふ ろ に て 任 え て 〜 ほ 又 ほ ふ ま ま り な り て か ろ

一たての手 字治拾 十七 今 ふ む に 母 え が 土 佐 の か ま て ろ て て り て あ ろ ろ ろ ど に 任 え て の 年 ち 〜

にんにく 忍辱 瑜伽論 何 寄 為 三 因 縁 一 忍 辱 二 柔 和 言 五 辱 者 謂 三 於 他 悪 終 無 返 報 永 和 者 謂 恐 無 〜 愚 性 不 嗔 他

愛義 世記 三段 悪 いろるや 牡 貝 の 毒 の 矢 に ん よ く の 長 と や ま ち る 〜

にんぢやう 人長 枕 記 六 こ ち よ げ な る お 未 の に ん ぢ や う 枕、未の三条人陪従などの長

にんぶ 人夫 字治拾 十九 義 家 侍 所 〜 敷 山 の 戒 壇 と 人 夫 か な ひ ぢ り る ろ そ

にんぎ 。妊〜して 又 宮 ち と ら れ と お ぶ ち ろ ち 妹 て そ ば く 〜 え ま り て に ん て 侍 る

にんぐ 。妊〜して 又 宮 ち と ら れ と お ぶ ち ろ ち 妹 て そ ば く 〜 え ま り て に ん て 侍 る

にのまち 二の町 。局町より時〜て万次 ろ る ろ に ろ り 保 ち ぎ に ろ ふ れ ば 二 の 町 の 人 で ち き る る 〜

にのまひ 二の舞 。舞より出 る 舞 て 行 に ま ば 狭 三 ト 世 六 既 習 ひ け る 所 ま 手 井 ち ろ ひ ぐ き の ぢ る て ち ち る と 陪

人 〜 も 宮 の あ る ぢ と お ぶ め 〜 ち り 栄 元 の 洛 世 三 さ れ ど 元 え ざ る 〜 ち ら に 〜 ぶ 〜 ん と の ど ろ ん な ど ち ひ て 月 ち き ぶ 侍 る れ ば に

ち ん ち ち ふ れ な り 侍 り ぬ れ ば 今 ハ 二 の 舞 ま て 人 の は ま ね と ち る て な り ね 〜 き ろ い と ち ち と き る り 大 鏡 三 の 舞 の 男 て て そ ハ 侍 る ち ち

にのひと 二の人 口 伝 抄 二人有 障 不 参 之 時 二 必 被 参 詣 栄 月 の え ん ハ 世 の 中 の ち と 実 報 の 五 長 ち ち ち ま つ り の ふ

九 条 殿 三 の 人 ち そ お ち ち れ ど

にぐ 逃 字治拾 六十九 十あ ひ ぶ ま よ く に げ ば に ぐ 〜 き ろ る り ち ち

にぐる 保元合 十三 か く て に ぐ る る り ち ち

にげ 字治拾 十八 ふ れ ひ と り に ぐ ん と ち ふ し て ち 〜

○**にげて** 古 雑下 ち 〜 あ ら な く て ま ぐ き も 月 の か ぐ る ち ふ ま に げ て

あ べ 枕 三十三 に げ て い る る る 〜 ち ぢ に げ る ち ち て に げ る ち ち

一にそり 保 さ ケ 川 十三 衣 ち ケ に そ り て に げ て ふ ど も あ ち ち ん 行 ち り に げ て る 神 と ち ち え

にげ ち ん と ち ひ て ち え 人 わ と え ち り て に げ え 〜 **一つる** 四 い る ち ひ て に げ つ る ぞ と 宮 べ

一さる 神代紀 下 卅 無所二逃去 ニケサル **一かる** うろと 〜 ち ありきなら ひ て に げ か く れ と ち る あ な ち る 〜 **一のがる** 雄略紀 九 こ ば 尼 尋 能 検 利 志 ゲノホリシ

附 **にがし** 字治拾 十三 に げ か ま て **一のく** 字治拾 九十六 化 物 に げ の き ケ こ ち 〜

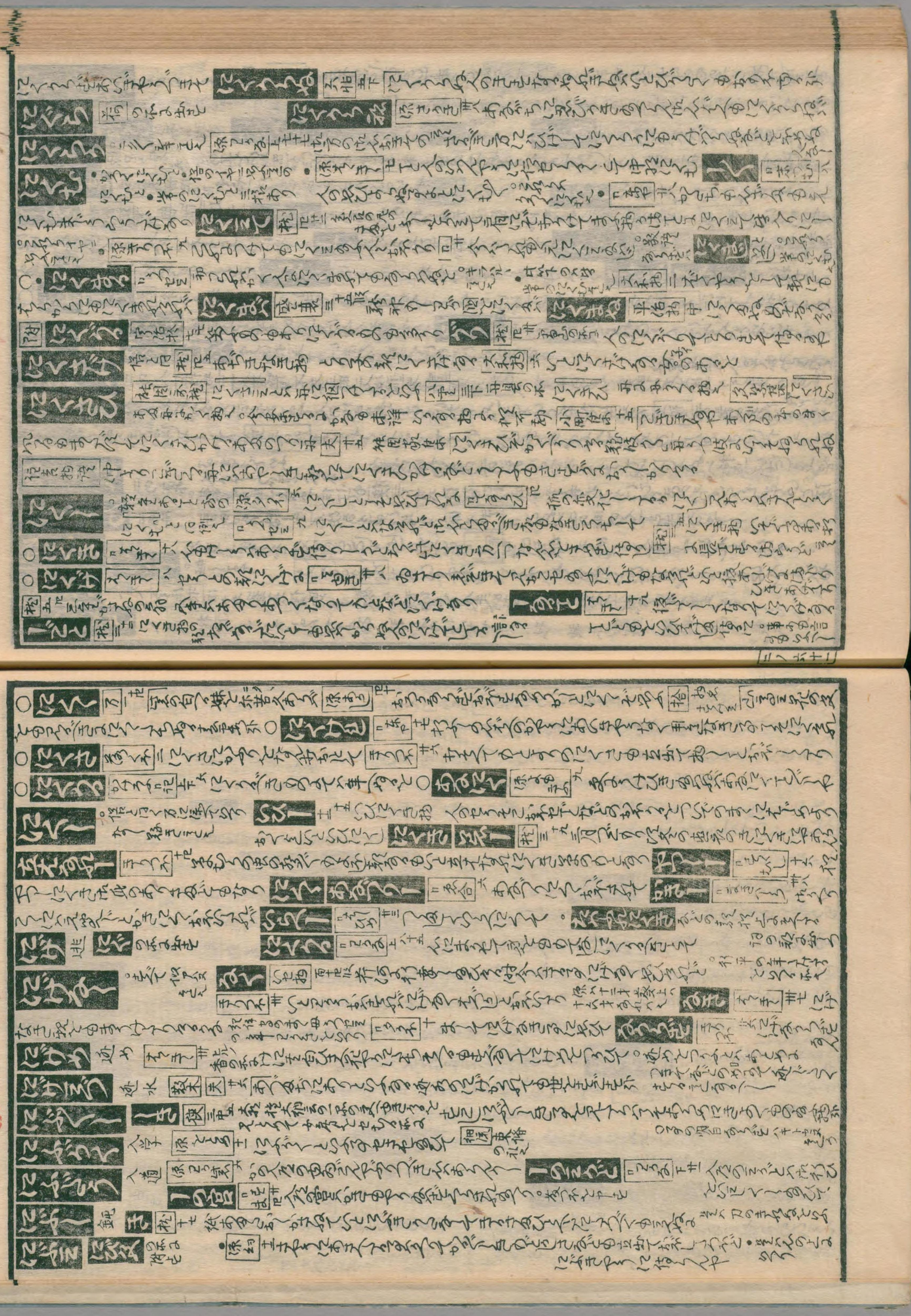
○**にが〜** 保元 ち 見 え 九 者 の 子 と い ぬ き ぶ に ぶ ち る 金 家 雑上 待 の ち ぶ れ ち り ち ち て に が し ち ち 高 の ね の ち 〜

にくむ の ふ ま は き **にくる** **にくてある** の ち ち **にく〜** の ふ ま き と **にくさし** 字治拾 三十三 今 に ち く ち も ま も に ち ち ば

にくらぢ 。倍 ま も 大 き ま と 保 ち き 〜 ち う ち む ち ち ん ち 〜 と も に く ち ち ち ぢ ち ち な ち ば 四 世 五 ち ち き な ち と も に ち ち

ミク、ナイ と ち る る 四 月 東 ち 十三 ち ち と ち ひ る び て あ る と い ゆ る の ち ぶ ち ち ち ち ち ち ち ち て ゆ る る ち り 枕 ち 四 ち 番

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用

にごく 俗とほく次の にごやとも はきく 狭 記中 世二大郎のめのと のさぶと なごにごく と 今年 す一 寺名えて 彩六帖 七 後 にごく とのえ 妹 ふにてかきれに生ゐにこまの

にごり 濁 体の語。大方濁世のみにごりにしぬいて行のあとを玉とあさむく 古 文 西昭 逢坂のにごりにしぬいて行のあとを玉とあさむく 文選 京結 荒示ト

にごりの赤 日記 かくちとしきにごりのきあに袖とりぬくもむきあてそ出ぬぐるい世あめれ 夫 世六 後成 にごりあきふまりセてつれぬくさぐ袖ろんも

にごりなき世 夫 七 後 にごりあるこの世のあきにてにごりなきよのはちとそこの 夫 八 後成 郭はきやにちくなくあるにごりなき世に公ぶもあるぶ

にごりなさん 原 為のうら 世六 寺の手にまるるるの花にごりなきよのはちとそこの

にごりなき世 夫 八 後成 郭はきやにちくなくあるにごりなき世に公ぶもあるぶ

にごりぬ世 濁井 夫 世六 仲平集 春井表 にごり井にうけとるらでもむぐりかいやんのつれるれと

にごりえ 濁江 いと集 彩古 表 にごりのきあるいそのにごりえぶとえん 四 世中とのにたとうんにごりのそこにるるもやとる月ぐ

にごりこづ 濁水 拾 雑表 あるるて表にごりにるるり水たがもあるかけらるる

にごる 濁 古 別 丹 表 拾 雑表 むさぶるの手ににるるふの井のあるそも人よこうれぬる弁 夫 八 あれ 三 表とパうえ後ちやく

にごりて 拾 雑表 丹 表 あるぐるつこるる 時パ山の井のにごりしよるも

にごりて 山家記 下 世中にもぬねもよりや

にごるる 彩千 雑中 宣明 つるる 来てひろ法のるえねばにごりとしとあるふ

にごりて 松玉六 あるにとてんるふくむさくやにごりさらん 山の井のあ

にごりを 夫 世一 長文三年 英代のあくこにごりるふよりの早苗とうこんかつまくるつ

にごりを 日 万葉解 私多物の女蔵茅 長吏 久佐 とるこんかつ 万 十九 七

にごりを 万十六 廿七 いる康とともるの辺の和草の 彩六帖 六 表 白 あるりのそこねのねろの赤古具佐の花つるれやひもとうぞ

にごりぬ 日 伝実 にごりまとてむかくこのろとあるこあるきとこそてべるるやん 日 為表 あ 後 中のにごりまちろくてーげるそひのわどーるん

にごやら 今もつり 万 十 世九 あ 後の中の佃児多永故余漢 にごやら もこそハ日

にあふ 似合 あ 原 春 世三 涙くるちどもいときよるるみにあひてり。形のかるもこるくもンロヒテよきをとハ

にき 日記。につきのつ 父字ものぶき ちれ日記 男もまとりのにてきとふ為をもも

例のるぐるるにいるる 身のるるのるるにきにハるまきるかなれども 原 あど 世 おみやうに後とかきあつめ

あひつやてるぶ記ありすあどにきのやうみかきのつり 日 表合 まあのくにきにきにるまきるかなれ 日記 中上三

るるるども月日たるるまにつにてさ(さ)おくふ指みかきるつ 枕 記下 平六 つるぶ世みあり

にぎふ 賑。俗ふ中で 賑昌又ギヤカ るるまるるるるるるるど 欽明記 の点のごとくにるるるるる

にいふ公ぶる張給とるるもたづきるき氏まおるあて多ヤカるるる

るきにのがてるれぶ 煩ふ氏のるるとる張ひるるる

にぎやか 源川 表 作時 にぎやかるる氏のるるどあるるるるるるる

にぎる 日記 ほよきあるるるるるやうにおのてるるるるるるるるる

にぎ 表 日記 ほよきあるるるるるるるるるるるるるるるる

にぎる 表 日記 ほよきあるるるるるるるるるるるるるるるる

えぎき 表 にてにぎるるるるるるるるるるるるるるるるる

にぎて 表 にてにぎるるるるるるるるるるるるるるるるる

にぎる 握 原 まきやう 世八 おるで巣るかしかひのるるるるるるるるるるるるるるるる

とるとにぎりもちてまづるもるるるるるるるるるるるるるるるる

にぎて 彩代記 廿八 和歌巾 此を尼枕在 夫 十八 男俗 俗 「やとのるちにてにぎてとかけ」非あそびあるるるるるるるるるるるるるるるるる

にぎり 欽明記 大致 饒 官 一 表 にぎりるるるるるるるるるるるるるるるるる

にぎり 彩古 表 伝 表 にぎりるるるるるるるるるるるるるるるるる

にぎり

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79
ガラス使用

にるかな　[名]にるかなの略か

にるかなり　[形動]

にるさま　[名]

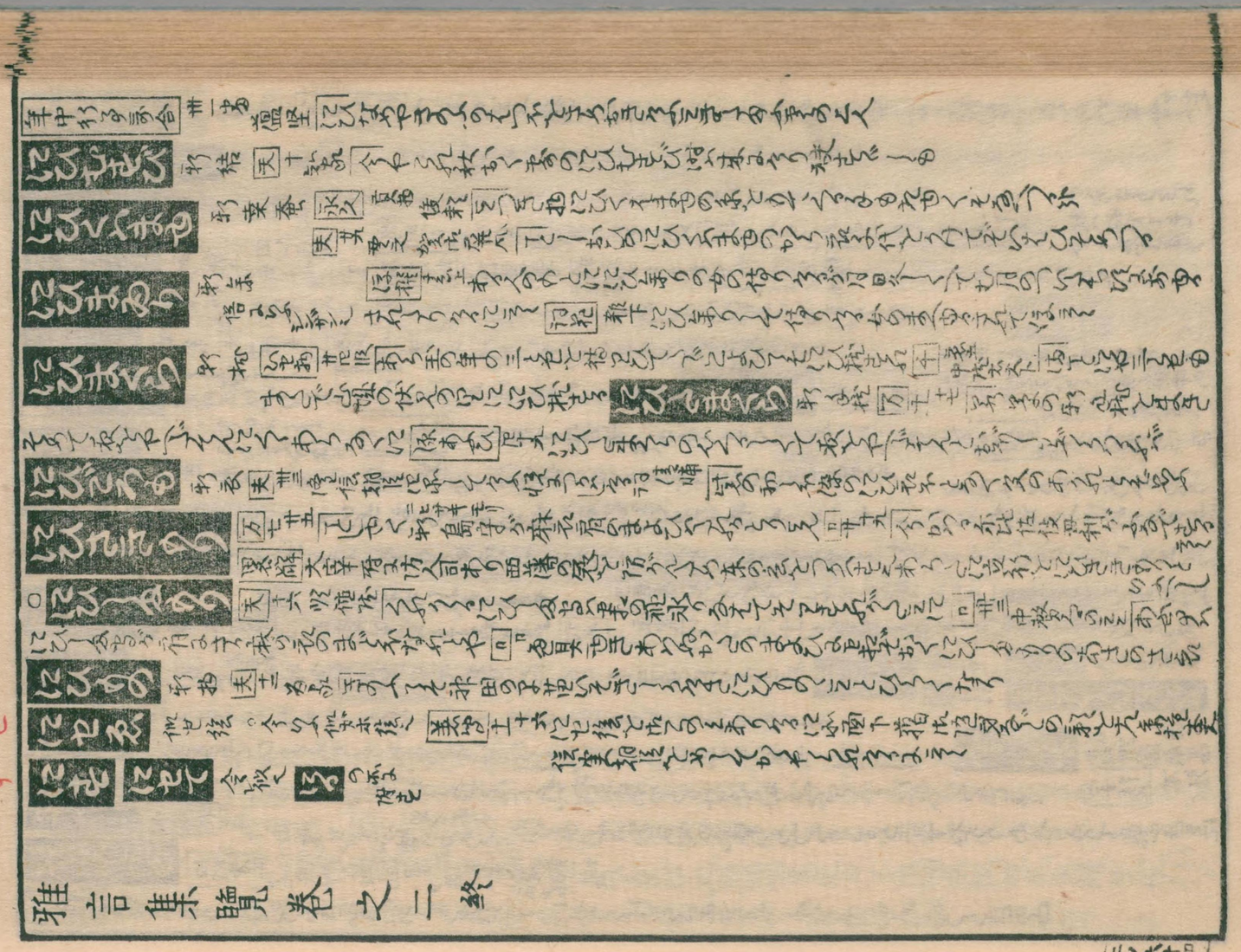
にるさまに　[副]

にるさまの　[連体]

にるさまもの　[名]

にるさまもの　[名]

にるさまもの　[名



雅言集覽巻之二終

837
13
79

国立国会図書館　タイトル『雅言集覽 13巻』　請求記号 837-79
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雅言集覧 13巻』 請求記号 837-79

ガラス使用